

全国の保育・教育施設では散歩先、園バス等様々な場面で行方不明、置き去り事故が続いています。横浜市内でも多数の事故報告がありました。いずれも無事に見つかりましたが、一つ間違えれば交通事故、連れ去り等重大な事故につながる可能性があります。

多くの行方不明・置き去りの原因としては、勘違い・思い込み・声かけ不足・うっかり・見守り不足などが考えられます。これらのヒューマンエラーを少しでも減らし、事故を防いでいくにはどうしたらよいでしょうか？

事事故例を挙げながら、事故防止に向けて各園が取り組んでいる事例もお伝えします。

実際にあった事例

【園舎内・園庭】

- エレベーターから降りた時に、人数確認を行ったが、その後保育士の横をすり抜けた園児がエレベーターに戻ってしまった。
- 行事のためホールへ移動する際、部屋に園児が一人残っていることに気付かず施錠してしまった。
- 倉庫に物を入れた際に、園児が倉庫に入ったことに気付かず扉を開けてしまった。
- 園庭から入室時、最終の人数確認をせず、園庭に園児を一人残してしまった。
- トイレ対応の保育士が交代する時に、確認しなかった為、2人残っていたが1人がトイレから出たところでもう1人を残したまま施錠してしまった。

【玄関・門・扉】

- 登園後、保護者を追って園児が園から出たことに気付かなかった。
- 降園時、他の保護者が門を開けた際に園児が園の外に出てしまった。

【公園内】

- 公園で遊んでいる時に、園児が集団から離れたことに気付かなかった。
- 隣にある公園のため、帰園時に人数確認せず、園児の置き去りに気付かなかった。
- 公園に行った保育士全員が、人数確認をせずに帰園した。園児の置き去りに気付かなかった。
- 公園から帰園時に、目視のみで人数確認を行い、帰園後に園児を公園に置いてきたことがわかった。
- 公園で人数を数えた後、保育士が他児をベビーカーに乗せている間に園児がその場から離れたことに気付かず帰園した。

原因は…

思い込み？

うっかり？

こんなこと思っていないですか

- 保育園の中でいなくなるはずがない。
- 並んでいる列から抜け出すことはない。
- 子どもたちと約束したから、公園の外に出ることはない。

- いつもと同じ公園だから大丈夫
- 園の近くの場所だから大丈夫
- 慣れている場所だから大丈夫

- 人数確認を忘れた。
- 他の用事を頼まれ、園庭にいる子の入室を忘れた。
- 他の人が人数確認したと思った。
- いなくなったことに気がつかなかった。
- 保育士間の声かけ忘れ

慣れによる油断？

見守り不足？



事故を防ぐためにも
複数のチェックポイントを作り、誰かが気付けるルールづくりを！



ヒューマンエラーを防ぐために ～ルール作りの事例～

確認方法

- 確認行動のルールを決める。
【声出し・指差し・復唱】
- 場面が変わるごとに人数確認をする。
- 複数で人数を数える。一人ひとりが人数を数え、声に出して伝え合う。
 - 散歩時
「〇人先に帰ります。残り〇人お願いします。」
 - 園庭から室内に入る時
「〇人先に部屋に入ります。残り〇人園庭確認をお願いします。」
- 押入れ、倉庫、エレベーター等の扉を閉める時に、誰もいないことを声出し指さして確認する。

役割分担

- 分担した役割の動きを共有する。
- 遊ぶ場所ごとに人数把握を行い、互いに声をかけ合う。
- 互いの役割を常に確認し声をかけ合う。

職員間での伝達共有

- 個々の園児の状況や、当日の体調、様子を職員間で共有する。
(配慮が必要な時は役割分担を明確にしておく)

人数確認のための可視化

- チェック表等を使って確認する。
- 散歩先での他園との連携
- 挨拶を交わしながら、公園内での遊ぶエリアや時間を伝え合う。

散歩時のルール ～園の取組事例～

- 人数確認時、並んだ列の前と後ろから複数で別々に数えています。
- 人数確認後、園に人数と帰園時間を連絡しています。
- 担任だけでなく他の職員も出発時、帰園時に一緒に人数確認をしています。
- 子ども同士が手をつないで散歩に出かける時は、行き帰りにともに同じ子ども同士にしています。
- 常に人数の全体把握をする人がいます。
- 点呼表等を使って人数確認をしています。
 - 出席の子の下の名前やマーク等で時間ごとに点呼できる小さい表を作成し、点呼時に使用する。
 - 散歩に行く園児数の数字カードを持ち、常に現人数を意識する。

